



2014.8.7宇核連研究会 H.M.

### Motivation

• Status

• Plan

#### Rapid neutron capture(R-過程)の天体起源を探る -21世紀に持ち越された基礎物理重要課題の一つ-



### 第三ピーク(A=195)の滞留核測定から分かること

- 半減期,質量および崩壊様式の測定:
- (n, γ)-(γ, n) 平衡条件: Y<sub>r, prog</sub> / T<sub>1/2</sub>(waiting) ~ const. ← → R-過程の経路決定
- R-過程形成に要する最小時間: ~  $\Sigma T_{1/2}$  (waiting)
- •天体環境条件: N<sub>n</sub> – T<sub>9</sub> 相関
- 凍結条件: T<sub>g</sub> and N<sub>n</sub>
- 重元素(U, Th)生成率





### KISS: KEK Isotope Separation System - A=195未知滞留核に到達する新たな研究方法 -







### Isotopic distributions of PLF



۰.

### ビームを用いたKISS装置性能試験(2012~2014) 鉄および白金の共鳴イオン化





- 鉄ビームのガスセル直接打込み:
   0.2 to 20 pnAの領域で一定の引出効率 (~0.3%)
- •共鳴イオン化した鉄イオンのS/N比:50
- <sup>124</sup>Xeビームの照射による標的から散乱された白金元素の共鳴イオン化:
   <sup>198</sup>Pt:<sup>198</sup>Pt(H<sub>2</sub>O):<sup>198</sup>PtAr<sub>2</sub> = 1:4:10

### KISSプロジェクト(第一段階)







#### Status

#### RIBFの装置では不可能であった中性子過剰な重い未知原子核へのアプローチが可能 天体核物理、原子核物理の新たな展開

→中性子過剰な超重核領域での核構造
 →R-過程の終端領域での未知な核情報
 →レーザー核分光などによる詳細な核構造研究

• IGLIS-NET(In-Gas Laser Ionization and Spectroscopy NETwork)の発足(2012)



#### research groups of 15 laboratories

- exchange of the current information in the research field of IGLIS
- discussion of the relevant physics subjects
- \* collaboration between KEK, RIKEN, and KU-Leuven

プロジェクトのタイムスケジュール



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020		
第1期 2010~	TRIAC移言	کر جر	S設置・討	験開発・ <sup>-</sup>	予備測定 5								
2014													
第2期						第一	-期共同和	リ用・本測	定				
2015~						アップク	レード		-				
2019					r		ŦĦ	研RIBE高	度化		<b>.</b>		
長期					ι ι		~=			>	J		
2020										第	二期共同	利用	
期待される おもな物理 成果						・滞留を ・滞程 ・滞程 その に過 性 子 が が が に し た で し た で し た し た し た し た し た う い で し た う い た う い た う で し た う い で し た う い た う た う た る で う た う た う た う た で た う た で か し た い か で た で か で た う で し た い か で で し た い の で し た い の で で し た い の で し で っ い ら で っ し で っ い し で っ い う で う で し た つ か で で う で う で う で う で う で う で う で つ で つ で う で つ で つ で つ で つ で つ し つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	・滞留核近傍未知核種(~19種)測定から、 r過程形成時の天体条件を定量的に予測 ・中性子過剰重イオンビームによる多核子 移行反応機構解明と中性子過剰未知重 原子核探索への有効性を確立 定からr-過程での核分裂サイクル効果を 定量化			・W, Ta, Hf 接測定に 補天体を ・r-過程終 法数1840 ・質量数1 過程経路	<ul> <li>・W, Ta, Hfなどの未知滞留核直 接測定によるr-過程起源の候 補天体を選別・特定</li> <li>・r-過程終焉部での中性子魔 法数184の影響を解明</li> <li>・質量数130,195ピーク間のr- 過程経路の特定</li> </ul>		
KISS実験	施設 *	2012 建	2013   2014   設中	2015   2016   2 3	017   2018   201 実験	9 2020				POST-	RIBF pla	an	
新一次陽子·高運動	り量ビームライン		建設								V/r	nucleon	
<ul> <li>ハドロン質量起源</li> <li>ハドロン内部構造</li> </ul>	解明 探索		準備 設計	実験 準備	実験	·A	KISS				V/r	nucleon	

天駅	

ストレッチャーリング	調査·検討	設計·建設
重イオン加速器	調査·検討	設計·建設

「KEKにおける原子核物理のロードマップ」2012.8核物理委員会



共同利用・共同研究・・・・



### 大歓迎!!

# 実験課題の相談、KISSと関連する研究課題の議論

http://kekrnb.kek.jp

### Unknown region of the r-process termination



Required luminosity: ~10<sup>30</sup> cm<sup>2</sup>/s for  $\sigma$ =1nb, 100 events/day

### Waiting list for upgrading KISS





#### Short term

- レーザーシステムの増強: 200Hz, 1W → 15kHz, 9W
- ・測定ステーションの充実: 1 station → 3 stations
- 質量測定準備: MRTOF + injection line

#### Long term

• 超伝導ー次ビームフィルターの導入: ex. ガス充填型ソレノイド磁場



装置の特徴

- ・超大立体角(ΔΩ~1sr)
- ・適度な一次ビーム抑制率(~1/10<sup>8</sup>)
- 多岐な独立利用法
- (核分光、反応機構研究)

## Collaborators



#### **KISS project**

#### KEK

Seoul National University Tsukuba University RIKEN K.U. Leuven Y. Hirayama, N. Imai\*, H. Ishiyama, S.C. Jeong,
H. Miyatake, M. Oyaizu, Y.X. Watanabe
Y.H.Kim
M. Mukai, S. Kimura
M. Wada, T. Sonoda
P. Van Duppen, Yu. Kudryavtsev, M. Huyse
\* N. Imai is now CNS.

#### **MNT** measurements at GANIL

#### KEK

#### GANIL

Torino University LNL Padova University Seoul National University IPN Osaka University Y. Hirayama, N. Imai, H. Ishiyama, S.C. Jeong,
H. Miyatake, Y.X. Watanabe
M. Rejmund, C. Schmitt, A. Navin,
G. de France, E. Clement
G. Pollarolo
L. Corradi, E. Fioretto
D. Montanari
S.H. Choi, Y.H. Kim, J.S. Song
M. Niikura, D. Suzuki
H. Nishibata, J. Takatsu



# END